日本教育社会学会

The Japan Society of Educational Sociology

第 75 回大会プログラム

２０２３年9月9日（土）・１０日（日）

（対面開催）

国立大学法人
弘前大学
HIROSAKI UNIVERSITY

主催：日本教育社会学会



第19回

児童教育実践についての研究助成

応募受付期間

2023.7.3 Mon. ▶ 10.31 Tue.

ことば、まなび、おうえん

助成期間

2024年4月1日から1年間または2年間

※2ヵ年助成の場合は1年経過時に中間報告の必要があります。

助成金額

1ヵ年助成：1件につき200万円を限度に助成します

2ヵ年助成：1件につき300万円を限度に助成します

対象となる研究

- 「ことばの力」を育む研究
- 児童教育実践の質を向上させる研究

審査委員

米田 英嗣　青山学院大学 教授
針生 悦子　東京大学大学院 教授
藤野　博　東京学芸大学大学院 教授
藤森 裕治　文教大学 教授（審査委員長）
横山 詔一　国立国語研究所 教授
（五十音順）

応募資格

- 日本の大学・研究機関に所属する研究者
- 日本の学校・教育委員会に所属する教育実践に携わる方

※応募に際しては、所属長あるいは指導教官からの推薦が必要です。

Webにて応募受付、詳しくは
博報堂教育財団ホームページをご覧ください
https://www.hakuhodofoundation.or.jp/

博報堂教育財団
Hakuhodo Foundation
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル14階　TEL:03-6206-6266　FAX:03-6206-6582

目　　次

Ⅰ　インフォメーション

ご案内 ・・・

研究発表Ⅲ（１７：００～１９：００）

【Ⅲ－１】教育政策・制度 ・・・

Ⅰ　インフォメーション

ご　案　内

1．会場　弘前大学・文京町キャンパス　総合教育棟

所在地

〒036-8224 青森県弘前市文京町 1

アクセス（6～7 頁の地図を参照してください）

JR 弘前駅から

徒歩の場合（約 20 分）

タクシーを利用する場合（約 5 分）

バスを利用する場合（約 15 分）

・弘前駅前（中央口）【3 番のりば】「小栗山・狼森線」または「学園町線」に乗車

・【弘前大学前】で下車

弘前バスターミナルから

徒歩の場合（約 20 分）

タクシーを利用する場合（約 5 分）

バスを利用する場合（約 15 分）

・【バスターミナル前のりば】「小栗山・狼森線」または「学園町線」に乗車

・【弘前大学前】で下車

大会実行委員会事務局連絡先

E-mail: jses2023taikai@gmail.com

2．参加資格

大会に参加するためには、学会ウェブサイト内の大会ウェブサイト（https://jses-web.jp/conference/75）から**事前に申し込み、大会参加費をお支払いただくことが必要です**。非会員の方もウェブサイトから臨時会員としての申し込みが可能です。

大会参加申し込み期間は、5 月 8 日（月）から 8 月 25 日（金）18 時までです。期限後の大会参加申し込みも可能ですが、その場合には期限後として設定された参加費となりますので、お気をつけください。

＜大会参加費＞

		一般	学生
期限内申し込み	会員	5,000 円	3,000 円
	臨時	5,500 円	3,500 円
期限後申し込み	会員	7,000 円	5,000 円
	臨時	7,500 円	5,500 円

※ オプションで「昼食用弁当」を申し込まれる場合は、1,200 円（税込）／日のお支払いをお願い致します。

（1）大会参加費等の支払いは、クレジットカードによる「オンライン決済」もしくは「銀行振込」のいずれかとなります。**8 月 25 日（金）の期限内**に申し込みと決済の手続きをお済ませください。ただし、支払

いは極力「オンライン決済」をご利用ください。なお、期限後の支払いについては「オンライン決済」のみとさせていただきます。当日会場でもオンライン決済によるお支払いのみ受け付け可能です。

（2）申し込み時に、会員番号（ID）の入力が必要となります。学会からの郵送物の宛名の下に掲載されている番号となります。会員番号（ID）・パスワードがご不明の際は、参加申込システム等の「ログインできない方はこちら」より再取得が可能ですが、対応にお時間をいただくことがございますので余裕をもってご確認願います。

（3）一般／学生の会員種別について、学会ウェブサイトの「会員情報管理システム」において、最新の情報に更新してください。

（4）「臨時（学生）」には、学部学生が含まれます。

（5）大会参加費について、会員（学生）は会員（一般）よりも 2,000 円減額されています。この減額分には、学会による大会参加負担軽減措置としての 1,000 円分が含まれています。

3．発表時間

【一般部会、テーマ部会、英語特設部会】

発表時間は、発表者の人数によって下記のようになります。

1 名・・・・・発者 20 分＋質疑応答　5 分

2 名以上・・・発表 40 分＋質疑応答 10 分

発表終了 5 分前に 1 鈴、終了時刻に 2 鈴、質疑応答終了時刻に 3 鈴の合図をします。発表時間は厳守願います。

【ポスター発表部会】

28 頁の記載を参照してください。

4．発表要旨集録

オンライン大会以前は、大会当日に受付で発表要旨集録の冊子または USB を配布していましたが、今大会では、**受付で発表要旨集録の冊子および USB を配布することはいたしません**。その代わり、大会期日に先だって、オンラインにて各研究発表の発表要旨の閲覧とダウンロードができるようにします。事前にダウンロードして大会にいらしてくださるようお願いします。また、「１３．本大会における wi-fi 環境について」（5 頁）に示した Wi-Fi 環境にて、大会会場で発表要旨の閲覧とダウンロードも可能です。

5．欠席の場合

発表者が欠席するときは、9 月 8 日までに大会実行委員会宛（jses2023taikai@gmail.com）に必ずお知らせください。発表者が欠席の場合、発表時間の繰り上げは行いません。

6．発表における機器の準備・使用について

（1）本大会では、発表で利用するプロジェクターのみ大会校で用意します。発表で利用するパソコンについては発表者がご持参ください。

（2）接続ケーブルとしてはＨＤＭＩ対応となっています。それ以外の接続を希望される場合は、専用のコネクタをお持ちください。

（3）大会校での複写は受け付けておりません。発表資料は、事前に十分な部数をご用意ください。

７．カラー資料作成の手引き～色覚バリアフリーの実現にむけて～

本学会では、学会発表や学会活動のさまざまな場面において「色覚バリアフリー」の実現をめざしています。色覚バリアフリーとは、色彩の識別が困難な人たちが一定の割合でいらっしゃるという科学的見地にもとづき、大会発表資料等における色の使い方の配慮等、適切な工夫が必要であるという考え方です。誰にとってもわかりやすい資料提示をめざし、特にカラー資料の提示の際には、次の点にご配慮くださいますよう、お願い申し上げます。

①赤と緑の識別が困難な場合が多いので、配慮する。
②レーザーポインターは、緑のポインターが望ましい。
③明度の差を利用し、コントラストのはっきりした色の塗り分けを工夫する。
④輪郭線や境界線で、塗り分けの境を強調する。
⑤ひとつの図版に使う色数は、なるべく少なくする。
⑥対象箇所を各色で示さず、場所や形でも指定する。（例：この四角い赤のマークは… ）

８．受付

大会第１日（9 月　9 日）は午前 8 時 45 分より、総合教育棟 1 階玄関ホールで受付を行います。
大会第２日（9 月 10 日）は午前 9 時 00 分より、総合教育棟 1 階玄関ホールで受付を行います。

今大会では、大会会場における参加受付の方法が従来と大幅に異なります。今大会では、申し込み期間内に参加申し込みと支払いをなさった方の名札が、「**期間内受付**」に用意されています。そこからご自分の名札を受けとって会場にお入りください。申し込み期間後に参加申し込みと支払いをなさった方は、「**期間後受付**」に申し出ていただくと名札用紙をお渡ししますので、ご自分で名前とご所属をご記入ください。当日申し込みの方は、「**当日受付**」にて、オンラインによる参加申し込みと参加費の支払い、および、名札の記入をしていただきます。

９．クローク

総合教育棟 1 階１０１講義室にクロークを設け、お荷物をお預かりします。ただし、貴重品は携帯してください。クロークに預けられた荷物は、9 日（土）は 19：15 まで、10 日（日）は 16：30 までに必ずお受け取りください。

１０．大会期間中の一時保育（無料）について

9 月 8 日～10 日の 3 日間、大会校内での一時保育（託児）室を創立 50 周年記念会館 2 階に設置します。希望される方は、**大会参加申し込み時にオプションで「一時保育」の申し込みをしてください。申し込み後、個別に詳細についてお伺いさせていただきます。なお、お部屋の関係上 10 名程度を上限とさせていただきます。お早目の申し込みをお願いいたします。**急遽一時保育の必要が生じた場合等は、事前に大会実行委員会（jses2023taikai@gmail.com）までご連絡ください。

１１．昼食

キャンパス近隣にはコンビニや飲食店がほぼないため、ご注意ください。キャンパス内の食堂（Horest）は、9 月 9 日（土）は営業予定ですが 10 日（日）は閉店の予定です。キャンパスコンビニ（Cerisier）は、両日営業予定です。なお、大会参加申し込み時にオプションで「昼食用弁当」の申し込みをしていただいた方には、大会事務局にてご用意した弁当を１０１講義室前でお渡しいたします。

１２．会員控室

会員控室（総合教育棟２０４講義室）には、お茶・お菓子等をご用意しております。ご利用ください。

１３．本大会における wi-fi 環境について

（1）本大会の会場内では eduroam が使用可能です。所属先が eduroam と契約を結んでいるかどうかご確認ください。

（2）会場内の会員控室等にフリーwi-fi の接続スポットを設置する予定です。

１４．懇親会

本大会では、残念ながら、懇親会は開催しないこととといたしました。

１５．バリアフリー対応について

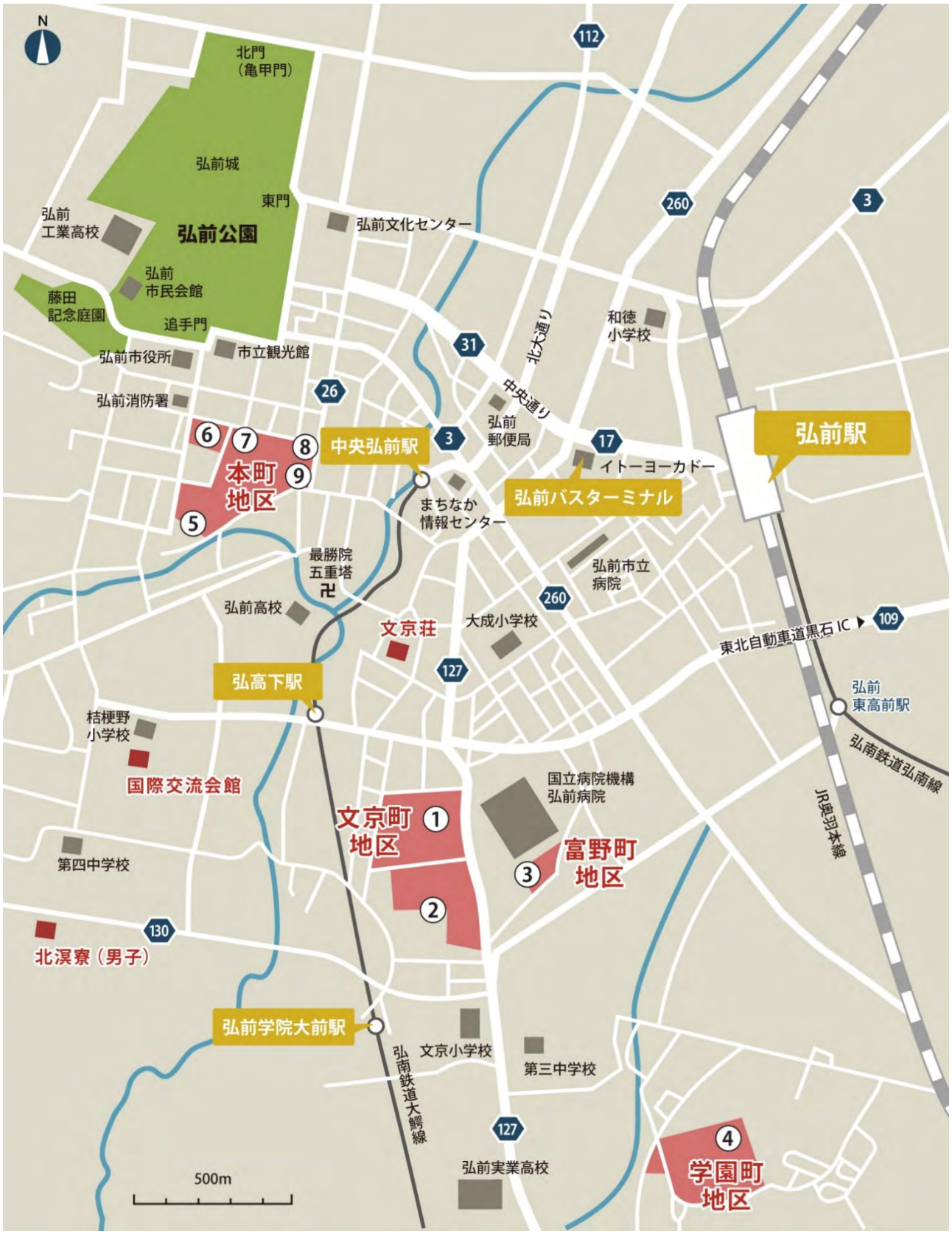
車いす利用など対応が必要な方は、事前に大会実行委員会（jses2023taikai@gmail.com）までご連絡ください。

１６．宿泊のご案内について

本大会では、宿泊についてのご案内はいたしません。

大会会場へのアクセス・構内案内図

最寄り駅からのアクセス




駅前バス停
3番のりば
「小栗山・狼森線」
または「学園町線」
バス 約15分
徒歩 約20分
バス停
【弘前大学前】
総合教育棟
General Education
Building
弘前
中央口
中央弘前
弘高下
弘前大学前
北瓦ケ町
駅前2
駅前町
大町2
南大町2
大富町
富野町
南富田町
品川町
御幸町
紙漉町
桶屋町
鍛冶町
寒沢町
西ケ丘町
取上1
取上2
稲田1
大成小
弘前中央病院
スーパーホテル
HIRORO
Mapion より引用

記念碑 Monument

1. 旧官立弘前高等学校創立10周年記念碑
   官立弘前高校の創立10周年を記念して建立【1931(昭和6)年10月6日】
2. 旧官立弘前高等学校創立40周年記念碑「虚空に羽ばたき碑」
   官立弘前高校の創立40周年を記念し、同校同窓会により建立【1960(昭和35)年5月】
3. 永澤誠蔵先生頌徳碑
   弘高柔道部顧問会と先生を慕う有志により建立【1962(昭和37)年5月】
4. 旧官立弘前高等学校創立70周年記念碑「弘高生青春之像」
   白線二本に大鵬の徽章の学帽をかぶりマントをもった学生服姿と、下駄をはいた袴姿の旧制弘高生2名が並んで遠くを眺む姿の像【1989(平成元)年8月】
5. 旧官立弘前高等学校在校生名簿碑
   旧制弘前高等学校創立80周年を記念し、旧制弘高在校生5,325名の名簿を刻んだ銘板。1927(昭和2)年4月入学の津島修治(太宰治)の名も【2000(平成12)年5月1日】
6. 初登頂の碑
   弘前大学山岳部と医学部山岳部の学生、OBがヒマラヤの未踏峰に挑戦、世界初登頂や新ルートの開拓など数々の実績を後世に残すため建立【2000(平成12)年10月10日】
7. 加藤謙一記念碑
   少年雑誌の編集に一生を捧げ、今日の漫画文化の礎を築き、名編集長と謳われた加藤謙一氏(青森県師範学校:現教育学部卒)の業績をたたえ建立【2010(平成22)年9月7日】
8. 教育学部創立130周年記念庭園「育ての庭」「青森県師範学校校歌歌碑」
   青森県師範学校を前身とする教育学部が創立130周年となることを記念して建立【2006(平成18)年9月30日】
9. 農学部創設30周年記念彫刻「望嘉天」
   弘前大学農学部創設30周年を記念して、同窓会により建立【1985(昭和60)年7月6日】
10. 島善鄰先生顕彰碑
    農学部創設の中心人物であった島善鄰先生は、青森県のリンゴ産業の危機を救った「リンゴの恩人」と称えられ、その業績を讃え建立【2011(平成23)年10月14日】
11. 「大本営跡」記念碑
    現在の農学生命科学部と理工学部の建物がある敷地に陸軍第8師団司令部が開設(明治31年)、師団司令部に大本営を置いたことを記念して建立【1940(昭和15)年8月1日】
12. 「理学部創設25周年記念庭園」記念碑
    弘前大学理学部創設25周年を記念して、同窓会により建立【1990(平成2)年6月30日】
13. 太宰治像(レリーフ)
    弘前大学創立70周年を記念して㊧太宰治文学碑の横に寄宿先でくつろぐ姿の津島修治(太宰治)の写真に基づきレリーフを作成し建立【2019(令和元)年6月】
14. 太宰治文学碑(太宰治生誕100年文学碑)
    小説家・太宰治(旧制弘前高校卒業生)生誕100年の節目に、太宰と弘前大学との縁を恒久的に伝えるために建立【2009(平成21)年6月6日】
15. 彫刻《羽のように、蕾のように》"Like a Wing, Like a Bud."
    岡田敬司先生(弘前大学名誉教授)の定年退官の記念作品【2008(平成20)年4月】

AED(自動体外式除細動器) Automated External Defibrillator

見学スポット Popular spots

ア 幸せのリング(金工作品)
弘前大学創立60周年を記念し、宮田亮平氏(元東京藝術大学長)により制作されたモニュメント。

イ シュプリンゲン「飛翔」(金工作品)
弘前大学学術特別賞(顕彰賞)の副賞として、これを模したトロフィーが贈呈される。宮田亮平氏(元東京藝術大学長)の作品。

ウ 地熱利用融雪装置
地下50メートルに埋設したパイプに水を循環させ地熱を取り込み、地面直下に埋設したパイプにより放熱して融雪を行う。

エ ハイブリット灯 野外照明とソーラー電池時計塔
太陽電池・風力発電機・蓄電池を活用、満充電で5日間連続点灯するだけの容量を持つ。

オ 旧制弘前高等学校外国人教師館(弘大カフェ)
1925(大正14)年に建てられた洋風建築。平成17年に文化庁より登録有形文化財の認定。平成28年6月に「弘大カフェ」としてリニューアルオープン。

カ 太宰治記念小公園
弘前大学創立70周年を記念して整備された憩いの場。

キ 資料館
弘前大学の前身校から現在に至るまでの歴史、多彩な研究成果など、本学のエッセンスを凝縮した展示を楽しめる。

ク フーコーの振り子
地球の自転を確認することが出来る。振り子の長さ45m(日本一)、重さ50kg。

ケ リンゴ見本園
本学が新品種として登録した果肉まで赤いリンゴ「紅の夢」などが植えられている。

記念樹 Memorial tree

A 弘前大学公園化推進記念植樹(ヤマモミジ並木)
Japanese maple

B 弘前大学創立50周年記念植樹(ケヤキ並木)
Zelkova

C 郡場寛学長記念樹(メタセコイア:スギ科)
Metasequoia

D 野村七錄学長記念樹(ヒマラヤスギ:マツ科)
Himalayan cedar

E 東野修治学長記念樹(ライラック:モクセイ科)
Lilac

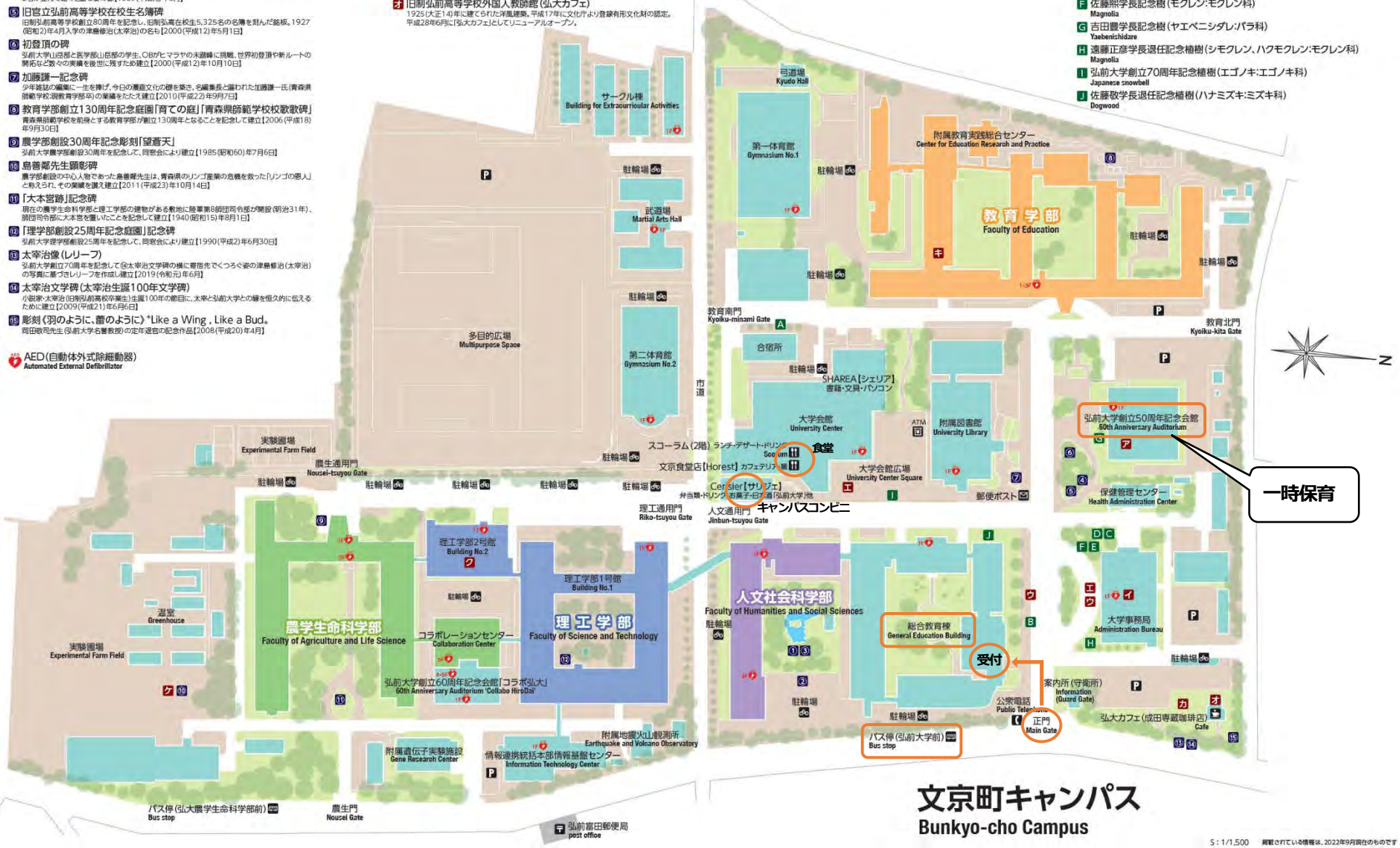
F 佐藤照学長記念樹(モクレン:モクレン科)
Magnolia

G 吉田豊学長記念樹(ヤエベニシダレ:バラ科)
Yaebenishidare

H 遠藤正彦学長退任記念植樹(シモクレン、ハクモクレン:モクレン科)
Magnolia

I 弘前大学創立70周年記念植樹(エゴノキ:エゴノキ科)
Japanese snowbell

J 佐藤敬学長退任記念植樹(ハナミズキ:ミズキ科)
Dogwood



文京町キャンパス
Bunkyo-cho Campus

S：1/1,500　掲載されている情報は、2022年9月現在のものです

会 場 配 置 図




正門
N
出入口
玄関ホール
EV
受付
WC
（男・女）
101
講義室
多目的
WC
出入口
ピ ロ テ ィ
大会本部
クローク
出入口
WC（女）
出入口
共用会議室
学務部
入試課
出入口
自学・自修室
男女共同参画
推進室
1 階
総合教育棟
General Education Building
キャリア
センター
セミナー室
／面談室
非常勤講
師控室
学生課掲示板
学務部教務課
総務担当
教務企画担当
修学・実習担
教養教育
担当
学務部
学生課
就職相談室
WC（男）
学務部
就職支援室
キャリア
センター
学習
サロン
EV
教養教育担当
窓口
WC
（男）
ホール
出入口
出入口
出入口
教養教育科目
掲示板
証明書自動発行機



前日　9月8日（金）		第1日　9月9日（土）		第2日　9月10日（日）	
常務会	２０１講義室	ポスター発表部会	リフレッシュスペース	課題研究Ⅰ	２０１講義室
理事会・代議員総会	２０１講義室	総会	２０１講義室	書籍コーナー	２０５講義室
研究委員会	２０３講義室	法人化説明会	２０１講義室	会員控室	２０６講義室
会員控室	２０６講義室	学会奨励賞授賞式	２０１講義室	司会代理待機室	２０８講義室
		書籍コーナー	２０５講義室		
		会員控室	２０６講義室		
		総会打ち合わせ	２０７講義室		
		司会代理待機室	２０８講義室		



前日　9月8日（金）		第1日　9月9日（土）		第2日　9月10日（日）	
若手研究者交流会-1	318講義室	ポスター発表部会	リフレッシュスペース	研究発表Ⅳ-3 部会	304講義室
若手研究者交流会-2	317講義室	研究発表Ⅰ-3 部会	304講義室	研究発表Ⅳ-4 部会	305講義室
若手研究者交流会-3	319講義室	研究発表Ⅰ-4 部会	305講義室	研究発表Ⅳ-5 部会	309講義室
若手研究者交流会-4	313講義室	研究発表Ⅰ-5 部会	306講義室	研究発表Ⅳ-6 部会	306講義室
若手研究者交流会-5	314講義室	研究発表Ⅰ-6 部会	309講義室	研究発表Ⅳ-8 部会	310講義室
若手研究者交流会-6	316講義室	研究発表Ⅰ-7 部会	310講義室	課題研究Ⅰ打合せ	313講義室
		研究発表Ⅱ-3 部会	304講義室	課題研究Ⅱ打合せ	314講義室
		研究発表Ⅱ-4 部会	305講義室	課題研究Ⅲ打合せ	315講義室
		研究発表Ⅱ-5 部会	306講義室	課題研究Ⅱ	301講義室
		研究発表Ⅱ-6 部会	309講義室		
		研究発表Ⅱ-8 部会	310講義室		
		研究発表Ⅲ-3 部会	304講義室		
		研究発表Ⅲ-4 部会	305講義室		
		研究発表Ⅲ-5 部会	309講義室		
		研究発表Ⅲ-6 部会	306講義室		
		研究発表Ⅲ-8 部会	310講義室		



前日　9月8日（金）	第1日　9月9日（土）	第2日　9月10日（日）
	研究発表Ⅰ-1 部会　４０４講義室	研究発表Ⅳ-1 部会　４０４講義室
	研究発表Ⅰ-2 部会　４０５講義室	研究発表Ⅳ-2 部会　４０５講義室
	研究発表Ⅰ-8 部会　４０６講義室	研究発表Ⅳ-7 部会　４０６講義室
	研究発表Ⅱ-1 部会　４０４講義室	課題研究Ⅲ　４０１講義室
	研究発表Ⅱ-2 部会　４０５講義室	
	研究発表Ⅱ-7 部会　４０６講義室	
	研究発表Ⅲ-1 部会　４０４講義室	
	研究発表Ⅲ-2 部会　４０５講義室	
	研究発表Ⅲ-7 部会　４０６講義室	

Ⅱ　大会日程・各種会合

大 会 日 程

前日：9月8日（金）

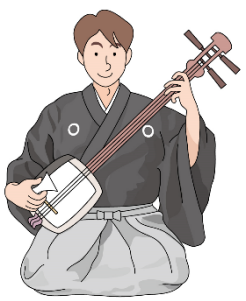
１６：３０～１８：００	若手研究者交流会
	（1）「投稿論文って大変」［対面開催：３１８講義室］
	（2）「領域横断って大変」［対面開催：３１７講義室］
	（3）「博論って大変」［対面開催：３１９講義室］
	（4）「大学院の世界って大変」［対面開催：３１３講義室］
	（5）「ひとりで研究するって大変」［オンライン開催：３１４講義室］
	（6）「研究をはじめるって大変」［オンライン開催：３１６講義室］

第1日：9月9日（土）

０８：４５～	受付［総合教育棟1階玄関ホール］
０９：３０～１２：００	研究発表Ⅰ（一般部会）［３０４～３０６・３０９・３１０・４０４・４０５講義室］
	研究発表Ⅰ（テーマ部会）［４０６講義室］
１０：３０～１２：３０	ポスター発表部会［2階・3階リフレッシュスペース］
１２：００～１２：５０	昼食
	弁当受け渡し［１０１講義室前］
１２：５０～１３：４０	総会［２０１講義室］
１３：４０～１４：０５	法人化説明会［２０１講義室］
１４：０５～１４：２５	学会奨励賞授賞式［２０１講義室］
１４：２５～１４：４５	休憩（移動）
１４：４５～１６：４５	研究発表Ⅱ（一般部会）［３０４～３０６・３０９・４０４～４０６講義室］
	研究発表Ⅱ（英語特設部会）［３１０講義室］
１６：４５～１７：００	休憩（移動）
１７：００～１９：００	研究発表Ⅲ（一般部会）［３０４～３０６・３０９・３１０・４０４～４０６講義室］

第2日：9月10日（日）

０９：００～	受付［総合教育棟1階玄関ホール］
０９：３０～１２：００	研究発表Ⅳ（一般部会）［３０４～３０６・３０９・４０４～４０６講義室］
	研究発表Ⅳ（国際部会共同研究ラウンドテーブル）［３１０講義室］
１２：００～１３：００	昼食・各種会合
	弁当受け渡し［１０１講義室前］
１２：２０～１２：４０	津軽三味線公演［２０１講義室］
１３：００～１６：００	課題研究Ⅰ［２０１講義室］
	課題研究Ⅱ［３０１講義室］
	課題研究Ⅲ［４０１講義室］



各 種 会 合

前日：9月8日（金）

１３：３０～１５：００　研究委員会［２０３講義室］

１５：００～１６：００　常務会［２０１講義室］

１６：００～１７：００　理事会［２０１講義室］

１７：００～１８：３０　代議員総会［２０１講義室］

第1日：9月9日（土）

１２：０５～１２：５０　総会打ち合わせ［２０７講義室］

第2日：9月１０日（日）

１２：０５～１２：５０　課題研究Ⅰ打ち合わせ［３１３講義室］
課題研究Ⅱ打ち合わせ［３１４講義室］
課題研究Ⅲ打ち合わせ［３１５講義室］

※ 大会本部・クローク：１０１講義室

※ 会員控室：２０４講義室

※ 書籍販売・展示：２０５講義室

※ 司会代理待機室：２０８講義室

※ 一時保育：５０周年記念会館

Ⅲ　プログラム

前日　９月８日（金）

若手研究者交流会　　１６：３０～１８：００

若手研究者交流会

若手研究者交流会を、大会前日の９月８日（金）に開催いたします。若手研究者交流会の目的は、大学院生をはじめとする若手の研究者が大学・研究室をこえた交流を通して、研究上の関心や課題、新たな気づきを共有し、また研究者相互のネットワークを拡充することです。
今年度は、対面で行うラウンドテーブル４つと、オンラインで行うラウンドテーブル２つを用意いたしました。いずれか一つのテーブルにご参加いただくことになります。
参加希望の方は、９月１日（金）までに下記のフォームより、お申し込みください。多くのお申し込みをお待ちしています。

記

【日　　時】2023 年 9 月 8 日(金)16:30～18:00
【場　　所】弘前大学 文京町キャンパス 総合教育棟 ／ Zoom
【参加対象】大学院生や初期キャリア段階にある若手研究者で、教育社会学に関心のある方（非学会員も可）
【参 加 費】無料
【ラウンドテーブル】
対面開催

１）投稿論文って大変　［３１８講義室］　　話題提供者：田垣内義浩（東京大学大学院博士課程）

『教育社会学研究』は私の生きがいである。だからこそ掲載決定は私の現在を大きく好転させた。ただ、それは反面で、掲載までの道のりをかなり苦しくしたし、その過程で自身の研究テーマに対し繰り返し疑心暗鬼になったりもした。そうした中、いかに苦しみと折り合いをつけつつ、教社研掲載に足る問いをつくりあげていったか、その試行錯誤・執筆経験のプロセスを報告する。私は決して研究者としての能力値は高くないし、周りに助けてもらってばかりであるが、そんな私だからこそ皆さんに寄り添った話題提供ができると信じている。

２）領域横断って大変　［３１７講義室］　　話題提供者：中村聖（北海道大学大学院博士後期課程）

遺伝と環境の影響力を推定する行動遺伝学的手法を階層研究に取り入れながら、研究を行ってきました。これまでの研究生活を振り返りながら、教育社会学において遺伝を取り上げる意義を説明する難しさ、および、行動遺伝学の分析方法を階層研究に取り入れる際に直面した問題点を改善した苦労について話したいと思います。こうした話題から、他分野のアプローチを導入する大変さについて皆様と意見交流できればと思います。

３）博論って大変　［３１９講義室］　　話題提供者：市村望（一橋大学大学院博士課程）

博士論文を執筆するまでのルートを提示した上で、自身はどのようなルートを辿っているのかをご紹介したいと思います。現在、私は長期履修制度を使用し、働きながら博士論文執筆を目指しています。その中で苦労していることなどをお話しながら、同じような悩みを抱えている皆さんと意見交流ができればと思います。

４）大学院の世界って大変　［３１３講義室］　　話題提供者：金弘実久（広島大学大学院博士後期課程）

① 教員養成系の大学から研究大学への院進の経験について、苦労したことや勉強になったことを話したいと思います。特に、修士課程の２年間で意識していたことや課外活動・学内外の研究交流の経験を紹介します。

② また「院生生活を楽しむために」というテーマで、院生のライフスタイルについて皆さんと意見交換をしたいです。

若手研究者交流会（9月8日（金）１６：３０～１８：００）

オンライン開催

５）ひとりで研究するって大変　［３１４講義室］話題提供者：鈴木菖（上智大学大学院博士後期課程）

①博士後期課程の在籍者が比較的少ない小規模大学の中で、研究を進める上での苦労や不安について報告します。

②小規模大学で研究者としてのキャリアを形成するための、自分なりの対処法や工夫を発表し、皆さんとの意見交流を行ないたいです。

６）研究をはじめるって大変　［３１６講義室］　話題提供者：中西美裕（大阪大学大学院博士前期課程）

①研究をはじめるって大変：これまでどのようにして研究分野や研究室、研究テーマを決めてきたのかといった点を、自己紹介と併せて発表します。②修士課程院生の苦労：自分の研究と他のタスクとのバランス、主に特段経済支援のない修士課程の中でどのように研究を遂行しているのかについて、自身の悩みとともに皆さんと乗り越え方を考えられたらと思います。

※ 研究者間の交流を目的としているため、カメラの使用を推奨します。ただし、機器が準備できないなどの事情がある場合には、カメラを OFF にして参加することも可能です。

【申し込みフォーム】

お申込みはこちらからお願いします。締め切りは 9 月 1 日（金）24：00 です。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd4aTd7VG_xiUkMxdlTO0IKm43EFgqUDJrpMWJu9lGpa-OWWw/viewform?usp=sf_link

【問い合わせ先】 日本教育社会学会教育部：jses.seminer.2122@gmail.com

Ⅲ　プログラム

第１日　９月９日（土）

研究発表Ⅰ（一般部会）	０９：３０～１２：００
研究発表Ⅰ（テーマ部会）	０９：３０～１２：００
ポスター発表部会	１０：３０～１２：３０
研究発表Ⅱ（一般部会）	１４：４５～１６：４５
研究発表Ⅱ（英語特設部会）	１４：４５～１６：４５
研究発表Ⅲ（一般部会）	１７：００～１９：００

研究発表Ⅰ－１部会
子ども・青少年

会場：総合教育棟４階４０４講義室

司会
梅田崇広（愛媛大学）

０９：３０～０９：５５　夢を諦めるとは何か？
―バンドマンのセカンドキャリア調査から―
〇野村駿（秋田大学）

０９：５５～１０：２０　小中高時代の読書活動に関する体験が成人後の自己認識等に与える影響
〇腰越滋（東京学芸大学）

１０：２０～１０：４５　生まれ月が主要科目、非主要科目、スポーツや非認知能力に与える影響
〇松繁寿和（高松大学）
柿澤寿信（立命館大学）
中瀬悠（大阪ガス・非会員）

１０：４５～１１：３５　学校と家庭における子どものICT機器の使用実態
―小中高生を対象にした調査結果から
〇木村治生（ベネッセ教育総合研究所）
〇松本留奈（ベネッセ教育総合研究所）
〇岡部悟志（ベネッセ教育総合研究所）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－２部会

福祉と教育

会場：総合教育棟４階４０５講義室

司会
保田直美（大阪成蹊大学）

０９：３０～０９：５５　山下英三郎の思想と行動
―スクールソーシャルワークと不登校の結節点―
〇水谷千景（京都大学大学院）

０９：５５～１０：２０　大正期における「児童保護」の理念と展開
―東京府「児童保護員」制度とその活動に着目して―
〇高橋靖幸（新潟県立大学）

１０：２０～１０：４５　援助に値する「子どもの貧困」－2023 年ビネット調査の分析
〇末冨芳（日本大学）

１０：４５～１１：１０　免罪符になる教育／免罪符にならない教育
―生活保護利用世帯で育ったある若年男性の生活史調査から―
〇長澤敦士（京都大学大学院）

１１：１０～１１：３５　大学卒業が児童養護施設入所経験者に及ぼす影響
〇西本佳代（香川大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－３部会

教師（1）

会場：総合教育棟３階３０４講義室

司会
川村光（関西国際大学）

０９：３０～０９：５５　教員採用試験合否の規定要因
〇須藤康介（明星大学）

０９：５５～１０：２０　大学生の就職活動と教職志望の関係
―学生の就職・採用活動開始時期に関する調査の二次分析から―
〇前田麦穂（国学院大学）

１０：２０～１０：４５　学生の教職への志望・進路動向等に関する研究
〇有海拓巳（浜銀総合研究所）

１０：４５～１１：１０　「非正規教員であること」をめぐる当事者の解釈実践
〇菊地原守（名古屋大学大学院）

１１：１０～１１：３５　休職からの職場復帰をめぐる教師のナラティヴ
〇伊勢本大（松山大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－４部会

大学教育の意味

会場：総合教育棟３階３０５講義室

司会
島一則（東北大学）

０９：３０～０９：５５　教員養成学部の「先生にならない」学生の経験
―地方私立大学を事例に―
〇金弘実久（広島大学大学院）

０９：５５～１０：２０　「音楽を教える仕事」の意味づけ―音大修学経験者の語りから
〇松川亜矢（名古屋大学大学院）

１０：２０～１０：４５　追跡調査から大学時代に学術的なレポートを書く意義を考える
―人文・社会科学分野に着目して
〇小山治（京都産業大学）

１０：４５～１１：３５　学生は「大学での学び」をどう語るか
―４つの機関タイプで実施したインタビュー調査の分析
〇濱中淳子（早稲田大学）
〇山内乾史（佛教大学）
〇葛城浩一（神戸大学）
〇吉田文（早稲田大学）
大多和直樹（お茶の水女子大学）
武藤浩子（早稲田大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－５部会

仕事と教育

会場：総合教育棟３階３０６講義室

司会
藤原翔（東京大学）

０９：３０～０９：５５　教育‐一般的信頼‐賃金の連関構造に関する実証的分析
―労働者が有する一般的信頼の平均水準に着目した国際比較研究
〇古川彰（東北大学大学院）

０９：５５～１０：２０　仕事における大学教育の「役立ち度」とスキル使用が収入に及ぼす影響―ジェンダー差に注目して―
〇本田由紀（東京大学）

１０：２０～１０：４５　日本の男女のスキル使用の格差についての分析
〇廣田英樹（文部科学省国立教育政策研究所）

１０：４５～１１：１０　大卒就職後の自己啓発と社会意識
〇二宮祐（群馬大学）

１１：１０～１１：３５　人事担当者は履歴書のどこを見ているのか？
：オンライン履歴書実験によるアプローチ
〇豊永耕平（近畿大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－６部会

進路と教育（1）

会場：総合教育棟３階３０９講義室

司会
堀健志（上越教育大学）

０９：３０～０９：５５　中国の中学生の進路分化に対する階層文化の影響
〇包婉蓉（広島大学大学院）

０９：５５～１０：２０　The Role of Imagined Futures in Gendered Educational Trajectories: Adolescents' Expectations and Uncertainty in Japanese Selective High Schools
〇打越文弥（Princeton University）

１０：２０～１０：４５　和歌山県の進学校に在籍する高校生の大学選択基準
―教師からの情報は誰の進路意識に作用するのか
〇津多成輔（島根大学）

１０：４５～１１：３５　高校生の進路と生活の 40 年
―学校パネル調査からみるその変容―
〇尾嶋史章（同志社大学）
〇多喜弘文（東京大学）
〇白川俊之（広島大学）
轡田竜蔵（同志社大学）
西丸良一（慶応義塾大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－７部会

社会的公正と教育

会場：総合教育棟３階３１０講義室

司会
片山悠樹（愛知教育大学）

０９：３０～０９：５５　職業教育訓練の公共性をどう考えるか
〇中川宗人（青森公立大学）

０９：５５～１０：４５　社会関係資本を活かした学校づくり
〇若槻健（関西大学）
〇新谷龍太朗（同志社女子大学）
西徳宏（大阪大学）
水野聖良（大阪大学大学院）
秋山みき（大阪大学大学院）
西村尋（大阪大学大学院）
王琳琛（大阪大学大学院）
古居宗一郎（大阪大学大学院・非会員）

１０：４５～１１：３５　貧困対策における教育の位置づけに関する規範的検討
〇阿部崇史（早稲田大学）
〇数実浩佑（宝塚大学）
〇宮本雅也（日本学術振興会（東京大学））

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅰ－８部会
【テーマ部会】日本の近代化と女子キリスト教主義教育

会場：総合教育棟４階４０６講義室

司会
石川由香里（立正大学）・中島ゆり（長崎大学）

０９：３０～０９：５５　~~女子キリスト教主義学校の学生文化：戦前から戦後へ~~
発表取消　~~〇片瀬一男（東北学院大学）~~

０９：５５～１０：２０　外国人居留地を発祥とする女子ミッション・スクール：近代的女性モデルの移入
〇佐々木啓子（電気通信大学）

１０：２０～１０：４５　近代日本の女子キリスト教主義学校にみる中等後教育の拡充と変容
〇土田陽子（帝塚山学院大学）

１０：４５～１１：１０　日本におけるカトリック高校の歴史的普及とその後の生徒減少期への対応：女子校・男子校の変容に着目して
〇相澤真一（上智大学）

１１：１０～１１：３５　キリスト教主義女子教育の変遷に見る知識・世俗化・エンパワーメント
〇天童睦子（宮城学院女子大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

ポスター発表部会

開催日時：9 月 9 日（土）10：30～12：30【場所：２・3 階リフレッシュスペース】
※当日は，10：00 に会場に集合してください。
※責任在席時間中は在席し，研究内容の説明と質疑に応じてください。
※番号 01～05 の責任在席時間は 10：30～11：30，番号 06～11 の責任在席時間は 11：30～12：30 です。

会場：２階リフレッシュスペース　　責任在席時間 10：30～11：30

番号	発表者（所属）	題目
01	○王帥（東京大学）	コロナ禍における奨学金返還者の生活実態に関する考察―働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査 2020（JLPS）から―
02	○中西啓喜（桃山学院大学）	日本人の政策選好の趨勢分析―JGSS を用いた APC 分析から
03	○藤本啓寛（早稲田大学）	政策は支援実態とどのように乖離していくのか―スクールソーシャルワーカー活用事業を例に―
04	発表取消 ~~○元濱奈穂子（一橋大学）~~	~~パネルデータによる高等教育進学の効用分析―高卒パネル調査（JLPS-H）を用いた進学者・非進学者間の収入比較~~
05	○武藤浩子（早稲田大学（非常勤）） ○沈雨香（早稲田大学） 木村康彦（千葉大学・非会員） 山本桃子（東京国立博物館・非会員） 藤本啓寛（早稲田大学） 濱中淳子（早稲田大学） 吉田文（早稲田大学）	附属校出身の学生はなぜ「引け目」を持つのか―学生インタビューによる検討

会場：３階リフレッシュスペース　　責任在席時間 11：30～12：30

番号	発表者（所属）	題目
06	○立石慎治（筑波大学）	専門職大学・専門職短期大学の教員組織構成とキャリア類型
07	○小原明恵（筑波大学）	探究学習を対象とした教育社会学研究の課題
08	○太田昌志（追手門学院大学）	子どもの政党認知の変化―親子パネル調査を用いた「知っている政党」の分析―

ポスター発表部会（9月9日（土）１０：３０～１２：３０）

09	○荒木真歩（東京大学大学院）	日本の公立高校入試に関する研究の展開可能性について
10	○山口ゆり乃（東京大学大学院）	在学中の活動と初職：異なる移行段階の比較
11	○苫米地なつ帆（大阪経済大学）	地位達成のプロセスにおける出生順位の影響についての検討

○印は報告者

研究発表Ⅱ－１部会

家族と教育

会場：総合教育棟４階４０４講義室

司会
加藤美帆（東京外国語大学）

１４：４５～１５：１０　小学生をもつ親の場所選好と教育戦略
―上海市の居住地に注目して―
〇余常清（日本大学大学院）

１５：１０～１５：３５　子どもの家事とジェンダー：中学生・高校生に着目して
〇戸髙南帆（東京大学大学院）

１５：３５～１６：２５　都市で育つ／育てる（２）：教育をめぐる親子の苦悩
〇知念渉（神田外語大学）
〇瀬戸麗（日本学術振興会特別研究員 PD）
〇栗原和樹（東京都立大学）
〇山口真美（松山東雲女子大学）
西田芳正（大阪公立大学）
数実浩佑（宝塚大学）
西徳宏（大阪大学）
田中祐児（東京大学大学院）
秋山みき（大阪大学大学院）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－２部会
ジェンダーとキャリア形成

会場：総合教育棟４階４０５講義室

司会
多賀太（関西大学）

１４：４５～１５：１０　職業構造の変化と教育歴のジェンダー
：「就業構造基本調査」を用いた分析
〇佐野和子（日本学術振興会特別研究員）

１５：１０～１５：３５　公務非正規で働く専門職女性の経験
〇廣森直子（大阪信愛学院大学）

１５：３５～１６：２５　小学校管理職をめぐるジェンダー・パターン研究の動向と展望
〇寺町晋哉（宮崎公立大学）
〇高島裕美（名寄市立大学）
木村育恵（北海道教育大学）
波多江俊介（熊本大学）
濱貴子（富山県立大学）
楊川（九州国際大学・非会員）
跡部千彗（立教大学・非会員）
瀬川朗（鹿児島大学・非会員）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－３部会
カリキュラム

会場：総合教育棟３階３０４講義室

司会
本田由紀（東京大学）

１４：４５～１５：１０　「新しい能力」と英語教育の接続過程
〇花田春香（一橋大学大学院）

１５：１０～１５：３５　「教育課程の自主編成」と教育における「自由」
〇大橋隆広（広島女学院大学）

１５：３５～１６：００　若者と教育の問題化と「社会人基礎力」の誕生
―生権力としての「社会人基礎力」政策―
〇前田崇（北里大学）

１６：００～１６：２５　台湾の外国語教育分野における VR 技術の応用の展開と課題
―日本語教育とその中等教員養成に着目して―
〇劉語霏（台湾・中國文化大學）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－４部会

進路と格差

会場：総合教育棟３階３０５講義室

司会
作田良三（松山大学）

１４：４５～１５：１０　中国における大学生の大学院進学動機
―量的オンライン調査を用いて
〇陳思源（上智大学大学院）

１５：１０～１５：３５　教育達成に対してトラッキングの地域差が与える影響に関する一考察
〇田垣内義浩（東京大学大学院）

１５：３５～１６：００　「重要な他者」が成績に影響するメカニズムについて
―中国における大学生調査から―
〇呉雨婷（新潟大学大学院）

１６：００～１６：２５　フランスの大学における学生の成功支援の新たな枠組み
―文化格差に注目した試みに注目して
〇田川千尋（大阪大学）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－５部会

地域社会と教育

会場：総合教育棟３階３０６講義室

司会
尾場友和（大阪商業大学）

１４：４５～１５：１０　中国における教員―保護者関係の困難"
〇朱新雅（広島大学大学院）

１５：１０～１５：３５　オルタナティブスクールの学びの在り方に関する一考察
―社会的ネットワークという視点から―
〇竹中烈（愛知文教大学）

１５：３５～１６：２５　過疎地域に若者を呼び寄せる取り組み
―熊本地震被災地域の事例を中心に―
〇鈴木勇（大阪成蹊大学）
〇榎井縁（大阪大学）
〇岡邑衛（千里金蘭大学）
山本晃輔（関西国際大学）
志水宏吉（大阪大学大学院）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－６部会
大学教員

会場：総合教育棟３階３０９講義室

司会
二宮祐（群馬大学）

１４：４５～１５：１０　米国コミニュティカレッジにおける留学生受け入れにおける教職員の認識―他者化を超えて―
〇陣田内美（名古屋大学大学院）

１５：１０～１５：３５　実務家教員を目指すのは誰か
―実務家教員養成課程修了生調査の結果から―
〇日下田岳史（大正大学）
谷村英洋（帝京大学）
小島佐恵子（玉川大学）
橋本鉱市（放送大学）

１５：３５～１６：２５　第三段階教育における地域・職業教育的機能と教員
〇吉本圭一（滋慶医療科学大学）
〇稲永由紀（筑波大学）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－７部会

特別支援教育

会場：総合教育棟４階４０６講義室

司会
酒井朗（上智大学）

１４：４５～１５：１０　障害児をめぐる教育現象に関する質的研究の動向と意義
―イギリス障害学を中心に―
〇佐藤貴宣（大阪大学大学院）

１５：１０～１５：３５　人間関係を希薄化する特別支援教育
―小学校のフィールドワークを通して
〇保坂克洋（山梨学院大学）

１５：３５～１６：００　通常学級から特別支援学級への転籍はいかにして起こるのか
〇鶴宮慶（早稲田大学大学院）

１６：００～１６：２５　発達障害児支援における保護者の経験
―子どもの逸脱と責任の所在
〇越川葉子（東京未来大学）

１６：２５～１６：４５　総括討論

研究発表Ⅱ－８部会
English Special Session
英語特設部会

Date: Saturday, September 9, 2023; 14:45-16:45 JST
Venue: Lecture Room 310, 3rd Floor, General Education Building

Chairpersons: Izumi Mori (Sophia University)
Eriko Masui (Graduate School of Data Science, Shiga University)

14:45-15:10	Exploring Study Abroad Attitudes of Students Majoring in Japanese Studies: Will They Go to Japan?	HoangNam Tran (Tokushima University, Japan)
15:10-15:35	Whose social justice? –Taiwanese senior high school students' understanding and interpretation of transitional justice	Bo-Ruey Huang (National Taitung University, Taiwan) Ying-Jie Jheng (National Taiwan Normal University, Taiwan)
15:35-16:00	A Discussion on History Education regarding Globalisation: A Clue from Grade 12 Textbooks in the Republic of South Africa	Masayasu Sakaguchi (Hyogo University of Teacher Education, Japan)
16:00-16:25	"Future-oriented lifelong Learning" discourses as a technology of governmentality - Critical extension of the capabilities approach	Chun-Ping Wang (National Taipei University of Education, Taiwan) Chou-Sung Yang (National Chi Nan University, Taiwan)
16:25-16:45	Wrap-up Discussion	

研究発表Ⅲ－１部会

教育政策・制度

会場：総合教育棟４階４０４講義室

司会
前田麦穂（國學院大學）

１７：００～１７：２５　公立高校再編期の地方県における高校教育と空間構成の変化
〇中村知世（大月市立大月短期大学）

１７：２５～１７：５０　Y 県における初等中等教育の学業成績に対する学級規模のパネル分析
〇飯田星良（追手門学院大学）
柿澤寿信（立命館大学）

１７：５０～１８：１５　2000 年代高校教育改革の限界
―X 県における A 高校の学校史から―
〇丸川拓己（早稲田大学大学院）

１８：１５～１８：４０　1980・1990 年代における高校の「体育に関する学科・コース」拡大過程に関する研究
〇日高裕介（育英大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

研究発表Ⅲ－２部会
ジェンダーと教育（1）

会場：総合教育棟４階４０５講義室

司会
知念渉（神田外語大学）

１７：００～１７：２５　米国における女子高生のための大学生活サバイバルガイドブックの研究
〇宇田川拓雄（嘉悦大学）

１７：２５～１７：５０　女性同士の関係をめぐる「百合」的な読み解き方
―2000 年代の「百合」専門雑誌の言説分析―
〇高思雨（成蹊大学大学院）

１７：５０～１８：１５　女子大生と男子中学生が一緒に考えるプロジェクト
―3 年間の取り組みから―
〇小森亜紀子（昭和女子大学）

１８：１５～１８：４０　学校教育における「ジェンダー『問題』」の可視化およびその変容に関する言説分析（３）
〇藤田由美子（福岡大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

研究発表Ⅲ－３部会

教師（2）

会場：総合教育棟3階３０４講義室

司会
伊佐夏実（京都工芸繊維大学）

１７：００～１７：２５　教員に向けられる「まなざし」の変化
―体罰に関する新聞投書の言説分析を通して
〇村上慧（名古屋大学大学院）

１７：２５～１７：５０　戦前期における高等工業学校附設工業教員養成所の役割
〇陳冠男（広島大学大学院）

１７：５０～１８：１５　ティーム・ティーチングの受容からみる教師の「責任」観
〇片山悠樹（愛知教育大学）
寺町晋哉（宮崎公立大学）
粕谷圭佑（奈良教育大学）

１８：１５～１８：４０　在外教育施設派遣教員はコロナ禍をいかに経験したか
〇芝野淳一（中京大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

研究発表Ⅲ－４部会

高等教育

会場：総合教育棟３階３０５講義室

司会
立石慎治（筑波大学）

１７：００～１７：２５　地方私立大学における早期卒業制度利用者の認識
〇藤井竜哉（東北大学大学院）

１７：２５～１７：５０　大学改革支援・学位授与機構の学位授与制度の 30 年
―「学士取得者に対するフォローアップ調査 2022」から
〇齋藤崇徳（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）
吉川裕美子（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）
李敏（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）
濱中義隆（国立教育政策研究所）

１７：５０～１８：１５　大学生の生活時間の時代的変化
〇鎌田健太郎（東京大学大学院）

１８：１５～１８：４０　大学に所属せずに「学者」であるということ
―米国の Independent Scholar Movement に関する文献レビュー―
〇丸山和昭（名古屋大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

研究発表Ⅲ－５部会

保育・幼児教育

会場：総合教育棟3階３０９講義室

司会
高橋靖幸（新潟県立大学）

１７：００～１７：２５　男子同性集団では何が行われているのか
―保育園３歳児クラスのビジュアル・エスノグラフィー調査―
〇天野諭（立命館大学）

１７：２５～１７：５０　「園に参加する」保護者像―保育雑誌『保育ナビ』の分析から―
〇栗原結海（お茶の水女子大学大学院）

１７：５０～１８：１５　幼稚園・保育所等における社会的養護下の子どもの受け入れの様相
〇坪井瞳（東京成徳大学）

１８：１５～１８：４０　総括討論

研究発表Ⅲ－６部会

進学行動と支援

会場：総合教育棟３階３０６講義室

司会
浦田広朗（桜美林大学）

１７：００～１７：２５　中国都市部における農民工子女と都市子女の教育期待の形成
―中国教育追跡調査（CEPS）データを用いて―
〇原媛（同志社大学大学院）

１７：２５～１７：５０　高校生の奨学金利用と高等教育進学―保護者調査の分析を通して―
〇朴澤泰男（国立教育政策研究所）

１７：５０～１８：１５　高等教育進学に伴う費用負担行動の階層差
〇古田和久（新潟大学）

１８：１５～１８：４０　大学の学費・奨学金制度に対するメディア言説の分析
〇白川優治（千葉大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

研究発表Ⅲ－７部会

社会階層と教育（1）

会場：総合教育棟４階４０６講義室

司会
妹尾渉（国立教育政策研究所）

１７：００～１７：２５　社会移動における教育の役割：統合アプローチ
〇藤原翔（東京大学）

１７：２５～１７：５０　新規大卒労働市場における専攻分野と職業の関連の変化
〇小川和孝（東北大学）

１７：５０～１８：４０　非大卒者の経済的地位達成：高卒で高所得なのは誰か？
〇平沢和司（北海道大学）
〇有田伸（東京大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

研究発表Ⅲ－８部会
グローバリゼーションと教育

会場：総合教育棟3階３１０講義室

司会
児島明（同志社大学）

１７：００～１７：２５　外国につながる未就学児の教育機会
―外国人母親へのインタビューから
〇内川明佳（東海大学）

１７：２５～１７：５０　専任教員と日本語関連講師のまなざしの比較研究
：移民背景を持つ高校生に対する評価と支援に着目して
〇大國七歩（東京大学大学院）

１７：５０～１８：４０　学生によるグローバルコンピテンシーの主観的意味付け
〇正楽藍（神戸大学）
〇杉野竜美（神戸医療未来大学）

１８：４０～１９：００　総括討論

Ⅲ　プログラム

第２日　９月１０日（日）

研究発表Ⅳ（一般部会）	０９：３０～１２：００
研究発表Ⅳ（国際部会共同研究ラウンドテーブル）	０９：３０～１２：００
課題研究Ⅰ	１３：００～１６：００
課題研究Ⅱ	１３：００～１６：００
課題研究Ⅲ	１３：００～１６：００
課題研究Ⅳ	１３：００～１６：００

研究発表Ⅳ－１部会
教育問題・社会問題

会場：総合教育棟４階４０４講義室

司会
稲葉浩一（和光大学）

０９：３０～０９：５５　「不登校」をめぐる専門知識・技術のネットワーク
〇保田直美（大阪成蹊大学）

０９：５５～１０：２０　「学校復帰」を目指す不登校支援のリアリティとその課題
―教育支援センターのエスノグラフィー―
〇別府崇善（東京大学大学院）

１０：２０～１０：４５　いじめの傍観者に関する実証的研究
〇浅田瞳（京都文教大学）
原清治（佛教大学）

１０：４５～１１：１０　「教育格差」と「地元の世界」「支援する学校」
―排除型社会における学校の役割を考える
〇西田芳正（大阪公立大学）

１１：１０～１１：３５　ネットいじめ被害経験者の特徴に関する検討
―コミュニケーションツールの違いに注目して―
〇長谷川誠（神戸松蔭女子学院大学）
原清治（佛教大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－２部会
ジェンダーと教育（2）

会場：総合教育棟４階４０５講義室

司会
藤田由美子（福岡大学）

０９：３０～０９：５５　地方女子ミッション教育と社会関係資本
―卒業生調査の分析から―
〇石川由香里（立正大学）

０９：５５～１０：２０　刑務所における「対話的な教育」はいかにして可能か
―特別改善指導（薬物依存離脱指導）導入期の試行的実践に着目して
〇仲野由佳理（日本大学）

１０：２０～１０：４５　小学校管理職への昇任をめぐるジェンダー・パターン
―校務分掌上の主要補職に着目して―
〇波多江俊介（熊本大学）
寺町晋哉（宮崎公立大学）
跡部千彗（立教大学・非会員）
木村育恵（北海道教育大学）
瀬川朗（鹿児島大学・非会員）
高島裕美（名寄市立大学）
濱貴子（富山県立大学）
楊川（九州国際大学・非会員）

１０：４５～１１：３５　専門学校への進路選択と学校生活におけるジェンダー差
〇眞鍋倫子（中央大学）
〇松川誠一（東京学芸大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－３部会
移民と教育

会場：総合教育棟３階３０４講義室

司会
石田賢示（東京大学）

０９：３０～０９：５５　移民的背景のある親のアスピレーションに関する研究
〇中原慧（京都大学大学院）

０９：５５～１０：４５　南米系移民第二世代の教育戦略
―移民集住地区で育った親たちの子育て
〇山脇佳（中京大学大学院）
〇大川ヘナン（大阪大学大学院）
三浦綾希子（中京大学）

１０：４５～１１：３５　追跡調査からみる移民第二世代のネットワークの変容
―「つながり」の活用と再構築―
〇角替弘規（静岡県立大学）
〇児島明（同志社大学）
〇三浦綾希子（中京大学）
〇坪田光平（職業能力開発総合大学校）
〇薮田直子（大阪教育大学）
清水睦美（日本女子大学）
額賀美紗子（東京大学）
劉麗鳳（日本大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－４部会
教育制度への理論的アプローチ

会場：総合教育棟３階３０５講義室

司会
中村高康（東京大学）

０９：３０～０９：５５　アナキスト教育社会学の可能性―脱権力の視点から―
〇菊地栄治（早稲田大学）

０９：５５～１０：２０　メリトクラシーと「加熱・冷却」概念に関する理論的検討
〇藤村達也（京都大学）

１０：２０～１０：４５　成功の要因を「運」に求める人びとと責任帰属
：計量分析による国際比較
〇池田大輝（東京大学大学院）

１０：４５～１１：１０　教育政策への意見の時点間比較
―高齢化・高学歴化による変化に着目して―
〇森坂太一（東北大学大学院）

１１：１０～１１：３５　教育機会とその平等に関する考察：教育政策論への示唆
〇卯月由佳（国立教育政策研究所）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－５部会
学校と教育

会場：総合教育棟３階３０９講義室

司会
久保田真功（関西学院大学）

０９：３０～０９：５５　「学級集団を指導すること」に関する一考察
―小学校授業のエスノグラフィーを通じて―
〇齋藤楓美（神奈川大学大学院）

０９：５５～１０：２０　イギリスにおける子どもと保護者にとっての就学
〇鈴木菖（上智大学大学院）
酒井朗（上智大学）
伊藤秀樹（東京学芸大学）
林明子（大妻女子大学）

１０：２０～１０：４５　私立通信制高校サポート校における支援実践
：スタッフの「役割」に着目して
〇大久保遥（京都大学大学院）

１０：４５～１１：１０　教育をめぐる「正常／異常」言説の制度化過程
〇池田隆英（岡山県立大学）

１１：１０～１１：３５　授業内相互行為における「伝承」の組織化
―実技科目「なぎなた」の実践事例を対象として―
〇高木誠一（国際武道大学）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－６部会

進路と教育（2）

会場：総合教育棟３階３０６講義室

司会
中西啓喜（桃山学院大学）

０９：３０～０９：５５　被災地の中高生の進路形成
―大船渡市・陸前高田市のコーホート・パネル調査に基づく分析―
清水睦美（日本女子大学）
○妹尾渉（国立教育政策研究所）
日下田岳史（大正大学）
堀健志（上越教育大学）
松田洋介（大東文化大学）

０９：５５～１０：２０　パネルデータを用いた子どもの進学希望に関する一考察
○王傑（慶応義塾大学）

１０：２０～１０：４５　高校進学格差のメカニズム：JLSCP の分析から
○大久保心（日本学術振興会・東京大学）

１０：４５～１１：３５　学校から職業への移行と離家・家族形成の日欧比較
○乾彰夫（首都大学東京）
樋口明彦（法政大学・非会員）
平塚眞樹（法政大学）
○堀健志（上越教育大学）
三浦芳恵（首都大学東京・非会員）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－７部会
社会階層と教育（2）

会場：総合教育棟４階４０６講義室

司会
中澤渉（立教大学）

０９：３０～０９：５５　パンデミック期間を含む学校パネルデータを用いた教育格差研究
〇松岡亮二（龍谷大学）

０９：５５～１０：２０　家庭環境が学力水準に与える影響～北陸地方と非認知能力に焦点を当てて～
〇山田航汰（関西大学大学院）

１０：２０～１０：４５　「指導のためのテスト」から学力格差をどう読み取るか
―学力格差研究における推算値法の有効性の検証―
〇川口俊明（福岡教育大学）

１０：４５～１１：１０　子どもの歯科検診データの社会経済的地位代理変数としての有効性について
〇岡嶋裕子（京都先端科学大学）
松繁寿和（高松大学）
柿澤寿信（立命館大学）
妹尾渉（国立教育政策研究所）
古々本一馬（大阪大学・非会員）
大川玲奈（大阪大学・非会員）
仲野和彦（大阪大学・非会員）

１１：１０～１１：３５　ハーモナイズされた縦断調査を用いた学校外教育利用の国際比較
〇赤林英夫（慶應義塾大学）
亀山友理子（慶應義塾大学・非会員）
野崎華世（大阪経済大学・非会員）
佐野晋平（神戸大学）
敷島千鶴（帝京大学）
シュナイダーソーステン（ライプチヒ大学・非会員）
ワシュブルックエリザベス（ブリストル大学・非会員）

１１：３５～１２：００　総括討論

研究発表Ⅳ－８部会（国際共同研究ラウンドテーブル）
The International Joint Study Session on Teachers and Society in East Asia -The Current State and Future of Teacher Education-
東アジアにおける教師研究 ―教師教育の現在とこれから―

Date: Sunday, September 10, 2023; 9:30-12:00 JST
Venue: Lecture Room 310, 3rd Floor, General Education Building

This roundtable is part of the international joint study "Teachers and Society in East Asia" conducted by members of Educational Sociology Associations in China, Taiwan, Korea, and Japan.

Last year, the first year of the two-year research period, we exchanged views on the situation of teachers in East Asian countries and regions and discussed major topics related to teachers. This year, the second year, we will focus on current and future policy trends in teacher education in each country and region, and discuss central issues surrounding teachers.

While teacher education includes both pre-service teacher education and in-service teacher education, its nature is changing in response to societal changes and policy trends. By exchanging information and ideas with foci on the "current state of teacher education (program content and issues)" and "future policy trends," this roundtable will attempt to understand the current state and characteristics of teacher education in East Asia.

Chairpersons:	Hiroyuki Ishikawa (Kyoto Notre Dame University, Japan)
	Mitsuhiro Ogawa (Hiroshima University, Japan)
Speaker 1:	Yahui Chang (Shaanxi Normal University, China)
Speaker 2:	Ki Hong Kim (Okdong Elementary School, Korea)
Speaker 3:	Hsiu-Ping Huang (National Taitung University, Taiwan)
Speakers 4 & 5:	Akihito Nakamura (Kyoto University of Education, Japan)
	Dai Isemoto (Matsuyama University, Japan)
Commentator:	Bo-Ruey Huang (National Taitung University, Taiwan)

International Affairs Committee: Satoko Fukahori
Kazuhiro Sugimoto
Hiroyuki Ishikawa
Mitsuhiro Ogawa

会場：総合教育棟３階３１０講義室

【趣旨】

本ラウンドテーブルは、中国・台湾・韓国・日本の教育社会学会のメンバーによる国際共同研究の[東アジアにおける教師研究]の一環として推進するものである。

2 年間の研究期間の初年度であった昨年度は、東アジア各国・地域の教師の置かれた状況について概観しながら、教師をめぐる主要なトピックについて交流を行った。2 年目にあたる今年度は、各国・地域における教師教育の現在と今後の政策の動向にフォーカスをあて、教師をめぐる中心的な課題を議論する。

教師教育（Teacher education）は教員養成（pre-service teacher education）と教員研修（in-service teacher education）を含むが、社会の変化と政策的な動向のなかで、教師教育の在り方にも変化がみられる。本ラウンドテーブルでは「教師教育の現在（プログラムの内容や課題）」と「今後の政策的動向」を念頭におきながら、事例を交流させつつ、東アジアの教師教育の現状や特徴を把握することを試みる。

司会：石川 裕之（京都ノートルダム女子大学）
　　尾川 満宏（広島大学）
報告１：常　亜慧（陝西師範大学）
報告２：金　起弘（玉洞初等学校）
報告３：黄　琇屏（國立臺東大学）
報告４：中村 瑛仁（京都教育大学）
　　伊勢本 大（松山大学）
討論：黄　柏叡（國立臺東大学）

（国際委員会：深堀 聰子、杉本 和弘、石川 裕之、尾川 満宏）

課題研究Ⅰ
教育社会学はいかに社会的インパクトを持てるか

【趣旨】

今日、学術研究の社会実装がますます求められるなかで、教育社会学もこの要請に無関係ではいられなくなっている。教育社会学による研究がどのようにして社会的インパクトを持てるか、という問いは学会員一人ひとりがさまざまなレベルで検討すべき課題である。

では、「規範や価値」から一定の距離をとり、「事実」の解明へと向かうことに学術的価値を置いてきた教育社会学において、アカデミズム外部の知との対話はいかに可能か。「あたりまえ」を常に問い直し、対抗知の創出を目指そうとする姿勢はときに、教育が有する規範性との間で強い緊張関係を生み出すことになる。

この緊張関係とは、調査時、収集したデータの分析時、研究の公表時などさまざまな段階で生じうる。ならば、存在学としての意義を重要視してきた教育社会学にとって、教育に関わる研究を産出し、また発信・提言する際、どのような視点や枠組み、方法が必要となるだろうか。このような論点を踏まえた上で、教育社会学における諸研究の社会的なプレゼンスを高めるために、調査・データ収集及び成果公表に関わる方法的規準や戦略について議論を深めることが本課題研究の目的である。

なお、本課題研究は、昨年度課題研究の１つであった「教育社会学は学力政策に貢献できるのか？」というテーマを引き継ぐものである。そこでは、学力政策・学力調査をめぐる日本国内の課題・論点が整理されるとともに、現在の教育社会学が置かれる状況や、学会の発信力に関わる問題が議論された。こうした視座を引き継ぎ、本年度は様々なアプローチや方法論から教育社会学における研究の社会的なインパクトとは何かという疑問を前提に抱きつつ、いかに社会的インパクトを持ちうるか、検討を深めていきたい。

報告１　多賀太（関西大学）
　　複合的境界人性の視点から教育社会学のインパクトを考える
　　―「ジェンダーと教育」研究の経験を中心に―
報告２　相澤真一（上智大学）
　　動きやすい政治のなかでの教育社会学の社会的インパクトを考える
　　―「9 月入学」をめぐる推計作業に携わった経験とその政策過程論的検証から―
報告３　貴戸理恵（関西学院大学）
　　不登校と生きづらさの研究における教育社会学のインパクトを考える

討論者　山田浩之（広島大学）

司会　石川良子（松山大学）、粕谷圭佑（奈良教育大学）

（研究委員：伊勢本大・粕谷圭佑・白松賢）

課題研究Ⅱ
職業教育と労働市場の関係を捉えなおす

【趣旨】

教育社会学においては、教育と職業の結びつきにおいて、主に学校から職業への移行に焦点を当てる傾向が強く、また、教育と地位達成との関係が検討されてきた。

教育から職業への移行や教育と地位達成との関連は、諸外国での研究も多いテーマであるが、日本について研究する際には、教育と職業との関係が日本の労働市場の特質に埋め込まれている点に留意が必要となる。新卒一括採用などを特徴とする日本的雇用慣行は、メンバーシップ型の雇用とも結びつき、職務の定めのない雇用契約が主流となり、教育と職業は密接な無関係（濱口2009）と呼ばれることもある。このような雇用慣行の下では、限定された職務についての知識や技能を身に着ける職業教育の持つ意味は限定されると考えられる。

しかしながら労働市場への参入に対し、教育がもつ意味は専門分野により異なり、高等教育進学と職業選択が重なる領域では、新卒一括採用の慣行とは馴染まない求職や採用の仕組みが存在する。一例として、芸術系の専門教育においては組織的な労働市場だけを想定することはできず、学校で学んだ事柄が職業に生かされているとみなせるかどうかは、学校を修了したものが選んだ進路（職種）によって評価が変わってくる。また、実態としてみれば、現在、短期高等教育の多くは職業教育を志向するものとなっている。これらの職業教育機関は、高校生には進学先としてどのように評価され選択されるのか。またそこを卒業してきたことは労働市場においてどのようなメリットとデメリットをもつのか。このように、専門分野や教育機関の種別の違いといった視点を組み合わせることで、若者の職業への移行や地位達成とのかかわりの日本的特質を捉えなおすとともに、職業教育がそれらに対して果たす役割の可能性と限界について検討したい。

報告１　福井康貴（名古屋大学・非会員）
「教育と労働の密接な無関係」の再調整―職業教育訓練における産学官連携の意味―

報告２　多喜弘文（東京大学）
日本における短期高等教育と人的資本形成―計量データ分析の結果から―

報告３　喜始照宣（園田学園女子大学）
芸術分野における初期キャリアと大学教育のレリバンス
―美術系大学卒業生への聞き取り調査をもとに―

討論者　稲永由紀（筑波大学）

司会　白川俊之（広島大学）、眞鍋倫子（中央大学）

（研究委員：眞鍋倫子、浦田広朗、白川俊之、都島梨紗）

課題研究Ⅲ
「教育と福祉のクロスオーバー」を教育社会学はどう見るか
―子どもの多様性と教育保障の相剋を踏まえて

【趣旨】

学校教育において多様な子どもを包摂する試みが進んでいる。前年度の課題研究Ⅲでは、「多様な子どもの「支援」を教育社会学はどう見るか――外国につながる子ども・障害をもつ子ども・不登校の子どもの研究の対話」と題し、このような状況に関する対象横断的な対話を試みた。そこで共有されたのは、医学・心理学的知見による個別スクリーニングとモニタリングが徹底される一方で、集団としてのニーズのフォローが後退していること、それとも関連して、「支援」のための学習支援・進路保障が、同化・同調圧力の強い学校文化と一元的な能力主義的選抜からの就労への移行を旨とする日本の学校制度における、「包摂の中の排除」（不利な立場での参入強制と結果としての排除の正当化）を帰結しているのではないかという危惧であった。

2年目の課題研究Ⅲは、これらの論点を、社会保障体制との関係などの広い文脈に位置づけ、子どもと教育の未来に向けて展開するために、「教育と福祉のクロスオーバー」を検討する場としたい。

「人生前半期の社会保障」として、多様な子どもの教育への包摂がよきものとされ、学校をスクリーニング機関とするスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとの連携の重要性がクローズアップされて、しばらく経つ。しかし、それが従来型の「学力」や「進路」の保障とそこに向けた規律化に留まれば、不利な層の「包摂の中の排除」につながりうる。とはいえ、今ある社会におけるケイパビリティの保障として、教育を全否定することもまた難しい。

こういった問題を考えるために、教育を媒介とした生存保障を、資本主義社会・福祉国家の歴史と現在との関係で問い直していきたい。そのために、福祉国家期やそれ以前の差別や貧困に関わる運動・実践・言説が子ども期の生存保障や教育保障をどう扱ってきたかを改めて振り返ったうえで、現代における生存や就労と教育・福祉システムの関係について改めて考える視座をフロアと模索したい。

報告1　元森絵里子（明治学院大学）
　　多様な子どもと教育保障の相剋の歴史と現在―趣旨説明を兼ねて―
報告2　倉石一郎（京都大学）
　　「教育×福祉」の歴史社会学―高知県の福祉教員制度を中心とした権力装置の展開―
報告3　佐々木宏（広島大学）
　　福祉国家による「包摂の中の排除」と当事者の抵抗―日本の貧困当事者運動を事例に―

討論者　仁平典宏（東京大学）

司会　渋谷真樹（日本赤十字看護大学）、越川葉子（東京未来大学）

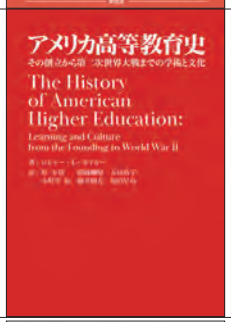
（研究委員：元森絵里子、越川葉子、渋谷真樹）



教育グローバル化のダイナミズム―なぜ教育は国境を越えるのか

ジョエル・スプリング著
監訳 北村友人　翻訳者代表 山田雄司・鈴木耕平
A5・上製・360 頁・3960 円

地球世界は、経済の国際化により１つにつながって久しい。今日の物流の世界化がインターネットによってより加速させられる中、国際企業と国際機関から教育の企業化が進められ、グローバルに通用する人間のスキルが求められた。OECD はじめ国際組織の教育戦略の実態を追うとともに様々な教育問題を包括的に考える優れた時宜を得た書。



アメリカ高等教育史

R・L・ガイガー著　原圭寛他訳
A5・744 頁・9460 円

17 世紀のカレッジ創設から米国高等教育は始まり、宗教教育から科学技術の発展、世界大戦期と様々な改革を遂げてきた。その400 年の複雑な歴史を創設期から丁寧に綴った待望の訳書！

完全性概念の基底

ヨーロッパの教育概念史
田中智志著 A5・562 頁・6380 円

人が生きる上で欠かせないのは、他者と共生し、分かち合う古来からの生の満喫である。本書は人間が求める「完全性概念」の深淵を探りヨーロッパ近代教育思想を辿った３部作の最新刊。





企業が求める〈主体性〉とは何か

武藤浩子著 A5・224 頁・3520 円

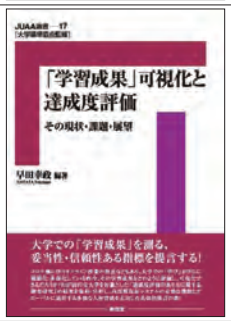
国や企業は人材に〈主体性〉を求めるが、その〈主体性〉とは何か明確でない。本書は、この曖昧な〈主体性〉に鋭く切り込み、〈主体性〉が求められることで生じる課題も示唆する。

韓国のキリスト教主義高等教育機関の形成

松本麻人著 A5・240 頁・3960 円

韓国では四年制大学の八割が私立大学であり、その四割がキリスト教主義の高等教育機関となっている。この教育機関が現代まで生き残ったのはなぜか。「協調」戦略の軌跡を活写した力作。





「学習成果」可視化と達成度評価

早田幸政編著　大学基準協会監修
A5・424 頁・4180 円

大学での学びが多様化している今、学習成果をどのように評価し、可視化できるか。「達成度評価のあり方に関する調査研究」を分析し、内部質保証システムの有効性とグローバルに通用する多様な人材育成のための具体的な提言書。

カンボジア「クルー・チャッタン」の時代

千田沙也加著 A5・272 頁・4950 円

ポル・ポト政権の崩壊後に教育を担った教員資格を持たない教師「クルーチャッタン」が経験した「生きられた歴史」を明らかにし、懸命に培った創造性豊かな教育実践の熱情が伝わる労作。



オープン・エデュケーションの本流

橘髙佳恵著　A5・二四〇頁・四七三〇円

美術鑑賞学習における思考の可視化と深化

石崎和宏・王文純著　A5・二九六頁・四七三〇円

米国シカゴの市民性教育

久保園梓著　A5・二四〇頁・四七三〇円

ASEAN諸国の学校に行けない子どもたち

乾美紀編著　A5・二〇八頁・二二〇〇円

オンラインリテラシー時代と読解リテラシーの葛藤

福田誠治著　A5・一六八頁・一九八〇円

過疎地の特性を活かす創造的教育

村田翼夫・山口満編著　A5・一六八頁・一九八〇円

人生100年時代に「学び直し」を問う

今津孝次郎・加藤潤編著　A5・二四八頁・二九七〇円

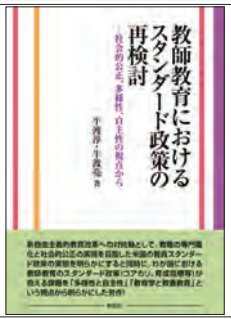
イギリスの自由教育論争

本宮裕示郎著　A5・二二四頁・三七四〇円

教師教育におけるスタンダード政策の再検討

牛渡淳・牛渡亮著 A5・248 頁・3740 円

教職専門職化と社会的公正を目指した米国の教員スタンダード政策の実態を明らかにし、日本における教師教育政策が抱える課題を多様性と自主性と教育学と教養教育の視点から明らかにした労作！



米国の特殊教育における教職の専門職性理念の成立過程

志茂こづえ著　A5・312 頁・4730 円

米国国際特異児童協会（後の特異児童協会）創設以降の特殊教育の専門性基準策定の展開と立法過程を丹念に辿り、専門職性理念の誕生を歴史的に紐解く労作。



東信堂直接注文お問い合わせ　アマゾン　楽天ブックス　honto

東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
HP http://www.toshindo-pub.com
☎ 03-3818-5521　FAX 03-3818-5514
toshindo.onlineorder1985@gmail.com
tk203444@fsinet.or.jp（代表）

＊博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！



ブルデューの教育社会学理論
—教育システムと社会階級・社会秩序の再生産と変革の理論
●小澤浩明 著　定価3,740円
「権力と正統性の一般人間学」の基礎理論としての教育社会学理論を再構成し、新たなブルデューの教育社会学理論像を提示。



児童養護施設の生活環境のダイナミクス
—家庭で暮らせない子どもの育ちと職員の実践
●山口季音 著　定価2,750円
児童養護施設における子どもの「育ち」、職員と相互に繋ぐ生活環境の実態に迫る。フィールドワーク調査から見えてきたものとは。



キャリアを創る —女性のキャリア形成論入門
●天童睦子 編　定価 990円
女性が主体的に自己の人生の展望をひらくことができる時代に、就職や就労のためだけのキャリアではなく、「ライフ・キャリア」の視点からやさしく解説。



LGBTと女子大学 —誰もが自分らしく輝ける大学を目指して
●日本女子大学人間社会学部LGBT研究会 編　定価1,100円
シンポジウム「『多様な女子』と女子大学—トランスジェンダーについて考える」をもとに編まれたブックレット。女子大学の方向性を探る一冊。



ダイバーシティ時代の教育の原理 第二版
—多様性と新たなるつながりの地平へ
●藤田由美子・谷田川ルミ 編著　定価2,420円
「ジェンダー」や「ダイバーシティ」視点から教育の歴史及び思想、教育の理念、現代の学校教育の諸課題について学びを深める。



新版　教育社会とジェンダー
●河野銀子・藤田由美子　編著　定価2,310円
私たちの世界にはどのようなジェンダー（社会的性）があるのか。LGBTの人々への視点を取り入れ新たに編まれた教育社会学テキスト。



批判的思考と道徳性を育む教室
—「論争問題」がひらく共生への対話　定価2,970円
●ネル ノディングス・ローリー ブルックス 著/山辺恵理子 監訳/他訳
答えの出ない「論争問題」を授業でどう扱い、どう子どもたちとともに考えていけばよいのか。対話が紡ぐ、共生への道。



現代アメリカ教員養成改革における社会正義と省察 —教員レジデンシープログラムの展開に学ぶ
●高野貴大 著　定価5,280円
多様化・多層化する現場の課題のなか、多文化社会アメリカの事例から、社会正義を志向する教師の養成方法について検討。



ユネスコ・教育を再考する —グローバル時代の参照軸
●日本教師教育学会第10期国際研究交流部・百合田真樹人・矢野博之 編訳著/他訳著　定価2,200円
"Rethinking Education"待望の翻訳。ユネスコの教育政策と実践の基盤議論を読み解く。重要語句や概念群の解説を加え紹介。



知る・わかる・伝えるSDGsⅣ 教育・パートナーシップ・ポストコロナ
●日本環境教育学会 監修/阿部治・朝岡幸彦 編著　定価2,200円
SDGs「教育」「パートナーシップ」を論考するシリーズ全4巻の最終刊。ポストコロナ社会におけるSDGs達成を目指し教育の重要性を捉え直す。



未来の教育を創る教職教養指針
教育と社会　定価2,420円
●油布佐和子 編著/山崎準二・高野和子 編集代表
現代社会のあり様と教育との関係をどう捉えるか。さまざまな領域の実態と課題から教育・学校の実態をマクロな視点で捉える。



「学校教育と社会」ノート 第三版
—教育社会学への誘い
●山内乾史 著　定価2,090円
教育社会学の視点から学校・大学と社会のかかわりについて分析。日本および先進諸国の事例を随時織り交ぜて行う。

〒153-0064　東京都目黒区下目黒３－６－１
http://www.gakubunsha.com
学文社
Tel 03-3715-1501(代)　Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

教育学年報14号　＊8月下旬刊行！

公教育を問い直す
編集委員 青木栄一・石井英真・下司 晶・佐久間亜紀・仁平典宏・濱中淳子・丸山英樹
五十音順
〈学校の公共的使命、人材育成にとどまらない教育という営為の価値、教職の専門性——「公教育」にかかわる問いと課題に鋭く迫る〉

現代ドイツの教育改革
前原健二
◎学校制度改革と「教育の理念」の社会的正統性
〈教員の働き方、学校の運営、学校制度の構成——三つの位相において戦後ドイツの教育はどこに課題を抱え、改革を進めてきたか。改革過程を教育制度の理論として描く〉
3600円

教育の世界が開かれるとき
矢野智司・井谷信彦＝編
◎何が教育学的思考を発動させるのか
〈教育とは、時代批判的な歴史的世界の創造的行為——近代教育の思考法を問いなおし、課題に応答する教育学的思考の新たな形を構築する試み〉
4400円

カリキュラム・学校・統治の理論
広瀬裕子＝編
◎ポスト・グローバル化時代の教育の枠組み
〈戦後の教育と教育学を包括的にマッピングできるグランド・セオリーはどこに？　変容しながら増殖する近代教育を摑まえる〉
執筆者＝石井英真・大桃敏行・苅谷剛彦・北村友人・小玉重夫・清田夏代・長嶺宏作・広瀬裕子
2200円

中学中退
劉 麗鳳
◎中国農村中学校の生徒と教師のエスノグラフィー
〈中国農村部の子どもたちはなぜ学校を中退するのか。〈急激な経済成長〉〈都市と農村間格差の拡大〉〈三元化社会・賤農主義・三農問題〉——学校教育の可能性を考える〉
3800円

since 1992
教育学年報【第三期】
ニューイヤーブック

【11号】教育研究の新章
編集委員＝下司 晶・丸山英樹・青木栄一・濱中淳子・仁平典宏・石井英真・岩下 誠
5000円

【12号】国　家
編集委員＝青木栄一・丸山英樹・下司 晶・濱中淳子・仁平典宏・石井英真
3400円

【13号】情報技術・AIと教育
編集委員＝石井英真・仁平典宏・濱中淳子・青木栄一・丸山英樹・下司 晶
3600円

福元真由美
都市に誕生した保育の系譜
◎アソシエーションニズムと郊外のユートピア
3500円

石戸典嗣
現代教育のシステム論
◎ルーマンの構図
2300円

永田佳之 編
変容する世界と日本のオルタナティブ教育
◎生を優先する多様性の方へ
5800円

高宮正貴
J・Sミルの教育思想
◎自由と平等はいかに両立するのか
3000円

林　潤平
自然愛をめぐる教育の近代日本
◎自然観の創出と変容の一系譜
3500円

日本教育学会教育勅語問題ワーキンググループ編
教育勅語と学校教育
◎教育勅語の教材使用問題をどう考えるか
2400円

世織書房
〒220-0042 横浜市西区戸部町7-240　文教堂ビル3階　TEL045-317-3176／FAX045-319-0644
seori@nifty.com　http://seorishobo.com〈税抜〉

的確に社会を読みとり，課題に挑む

社会と調査

No.30 特集　コロナ禍における社会調査

社会調査とコロナ禍 …… 田辺俊介
コロナ禍のパネル調査経験 …… 石田賢示
コロナ禍の困難から考える質的調査の特質と課題 …… 知念 渉・尾川満宏・都島梨紗
コロナ禍と国際比較調査 …… 荒牧 央
座談会　調査の困難とその解決
…… 田辺俊介・三浦麻子・石田賢示・杉本真義・吉田佳子・知念 渉・都島梨紗

長谷川公一／渡辺健太郎／滕媛媛・埴淵知哉・中谷友樹／藤田智博／大橋 恵・川口めぐみ・井梅由美子／吉田朋子／左地亮子／小宮信夫・中尾清香／工藤 遥／峯俊洸大／高橋将宜／稲葉昭英／前田幸男／白波瀬達也／松本正生／金澤悠介／安藤由美／西野理子／久冨善之／川口俊明／志水宏吉／岸 政彦／石田 浩／多喜弘文／白川俊之



定価　本体 1,200 円＋税
『社会と調査』は年 2 回発売（3月，9月）

発行・編集　一般社団法人 社会調査協会
東京都文京区本郷 5-25-18 エルスタンザ本郷東大前 3F
TEL: 03-6273-9784　FAX: 03-5684-0374
https://jasr.or.jp/
入会申しこみについては，本協会ホームページをご覧ください。

制作・販売　株式会社 京都通信社
京都市中京区室町通御池上る御池之町 309（〒604-0022）
TEL: 075-211-2340　Mail: shigotoba@kyoto-info.com
http:/www.kyoto-info.com/
書店にない場合は，京都通信社までお問いあわせください。

購入方法
1 研究室や図書館などでの定期購読をおすすめします。発売元の京都通信社にメールでお申しこみください。
2 個人購読は，もよりの書店を通じてお申しこみください。
※会員の方がたには，特典の 1 つとして無料配布しています。社会調査協会では販売を行っておりません。

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究

「子どもの生活と学び」研究プロジェクト

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、「子どもの生活と学び研究プロジェクト」の一環として、2015年度から約2万組の小学1年生～高校3年生の親子を対象にした「子どもの生活と学びに関する親子調査」を実施しています 。本調査は 、同じ対象を継続的に追跡するパネル ・ データであるとともに、親子ペアで回答してもらうダイアド・データでもあるという、他に類のない特徴を有しています。

調査結果

2015年度から22年度までの調査結果をHPで公開



書籍　勁草書房より刊行

子どもの学びと成長を追う
2万組の親子パネル調査の結果から



●近日、第2弾を刊行予定!

ローデータ公開中

2015年度から18年度に取得した複数のデータを、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターで公開中。同センターに申請することで、研究や教育目的で利用できます 。

公開しているデータ

●ベースサーベイ
・小1～3の保護者、小4～高3の子どもと保護者
・日々の生活、学習、人間関係・価値観を調査

●卒業時サーベイ
・高3の子ども（卒業時の3月に実施）
・進路選択の振り返りと卒業後の進路を調査

●語彙力調査・読解力調査
・小3・6・中3・高3(語彙力)、中3・高3(読解力)
・IRTにより一元化された尺度で調査

ベネッセ教育総合研究所 https://berd.benesse.jp/

月刊「教育展望」

毎月1日発行、A5判、64頁、定価493円（448円＋税）

2023年　特集
10月号　発達障害の理解とその対応
9月号　主体的な学びを実現する自己調整能力について
7・8月合併号　日本の学校教育の現状と変革の方向性
6月号　子どもが主体の学びについて
5月号　教員の資質・能力の向上に向けて
4月号　働き方改革と学校マネジメント
3月号　GIGAスクール構想の先にある教育の目指すもの
1・2月合併号　これからの時代に求められるカリキュラムの在り方
―国際的な視点を踏まえて―

2022年　特集
12月号　第51回教育展望セミナー　テーマ別報告
11月号　第51回教育展望セミナー　全体会報告
10月号　教職員のメンタルヘルス
9月号　Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージをめぐって

「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料

A5判、定価2619円（2381円＋税）

No.55（第52回教育展望セミナー）　2023年7月発行、104頁
変革の時代の学校教育を展望するⅢ
―子どもが主体的に学びを深めるための学習指導の在り方―

No.54（第51回教育展望セミナー）　2022年7月発行、104頁
変革の時代の学校教育を展望するⅡ
―子どもが主体的に学びを深める学校教育の在り方―

一般財団法人 **教育調査研究所**
〔理事長　新井郁男〕
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
TEL：03-3520-2970　FAX：03-5579-6574
E-Mail：chouken@estate.ocn.ne.jp

武井 哲郎・矢野 良晃・橋本 あかね 編著
不登校の子どもとフリースクール
持続可能な居場所づくりのために
156頁　2,200円
民間フリースクールが子どもの最善の利益を守りながら運営を続けるためには？事業継続のための葛藤と格闘，現場の苦悩や失敗に学ぶ。



前田 麦穂 著
戦後日本の教員採用
試験はなぜ始まり普及したのか
192頁　4,180円
「倍率信仰」を問い直す「教員採用試験」の歴史社会学。日本社会は「学校の先生」をどう選んできたのか。教員採用試験という「当たり前」を問い直す。



妹尾 麻美 著
就活の社会学
大学生と「やりたいこと」
250頁　4,620円
なぜ大学生は「やりたいこと」や熱意を問われ、語るようになっていくのか？労働市場媒介者が果たす役割と大学生の状況の定義を明らかにし、就職情報サービスと「就活」の仕組みを解明する。



伊藤 公雄・多賀 太・大束 貢生・大山 治彦 著
男性危機？
国際社会の男性政策に学ぶ
228頁　2,640円
男性もまた「理想的な男性像・男性役割」に戸惑い始めている。男性性の分析を通じてジェンダー平等社会の実現を構想する。



大江 將貴 著
学ぶことを選んだ少年たち
非行からの離脱へたどる道のり
170頁　2.970円
なぜ彼らにとって学びは必要だったのか。矯正施設を退所後に、再び学ぶことを選択した少年たちへの追跡的なインタビュー調査で得られた語りをもとに、非行からの離脱過程を明らかにする。



寺町 晋哉 著
〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践
214頁　2,750円
ジェンダー平等な学校をつくるために、ジェンダーから影響を受けて人生を歩んできた教師たちができることとは。



晃洋書房
京都市右京区西院北矢掛町七番地
http://www.koyoshobo.co.jp
TEL 075（312）0788 / FAX 075(312)7447
※価格はすべて税込

有斐閣 出版案内

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 https://www.yuhikaku.co.jp/ 表示価格は税込

これからの教育社会学
新テキストシリーズ
相澤真一・伊佐夏実・内田 良・徳永智子 著 y-knot 定価2530円

これからのメディア論
大久保 遼 著 y-knot 定価2310円

実況中継・社会学
等価機能主義から学ぶ社会分析
北田暁大 著 A5判 定価2420円

外国人雇用の産業社会学
雇用関係のなかの「同床異夢」
園田 薫 著 A5判 定価4950円

社会政策の考え方
現代世界の見取図
ダニエル・ベラン／リアン・マホン 著 上村泰裕 訳 四六判 定価3080円

親密圏と公共圏の社会学
ケアの20世紀体制を超えて
落合恵美子 著 A5判 定価3850円

〈わたし〉から始まる社会学
家族とジェンダーから歴史、そして世界へ
平井晶子・中島満大・中里英樹・森本一彦・落合恵美子 著 A5判 定価3960円

リーディングス アジアの家族と親密圏（全3巻）

家族イデオロギー 第1巻
森本一彦・平井晶子・落合恵美子 編 A5判 定価6930円

結婚とケア 第2巻
平井晶子・落合恵美子・森本一彦 編 A5判 定価6930円

セクシュアリティとジェンダー 第3巻
落合恵美子・森本一彦・平井晶子 編 A5判 定価6930円

記憶を語る、歴史を書く
オーラルヒストリーと社会調査
朴 沙羅 著 四六判 定価2530円

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 ＊図書目録送呈 ＊価格税込
https://www.akashi.co.jp/ TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174

特殊教育・インクルーシブ教育の社会学
サリー・トムリンソン 著 古田弘子、伊藤駿 監訳 ◎4950円
イギリス教育社会学の重鎮が、特殊教育やインクルーシブ教育を構成する教育的、社会的、政治的、経済的実践を分析する。



社会の周縁を生きる子どもたち
家族規範が生み出す生きづらさに関する研究
志田未来 著 ◎5940円
ひとり親家庭を中心とした非標準的な家庭要素と学校経験との関連を探り、学校教育を通じた生徒に対する支援策を検討していく。



生活困難層の教育社会学：大規模公営団地継続調査 第1巻
低所得層家族の生活と教育戦略
収縮する日本型大衆社会の周縁に生きる
山田哲也 監修 松田洋介、小澤浩明 編著 ◎3960円
大規模公営住宅の子育て世帯に対する長期調査をもとに、教育社会学的なアプローチから教育と格差・不平等をめぐる問題を探求する。



教育福祉の社会学
〈包摂と排除〉を超えるメタ理論
倉石一郎 著 ◎2530円
教育を通じて貧困や排除の克服をはかる「教育福祉」の歴史・実践を検証し、その理論を社会学的に再構築していく。



社会関係資本
現代社会の人脈・信頼・コミュニティ
ジョン・フィールド 著 ◎2640円
佐藤智子、西塚孝平、松本奈々子 訳 矢野裕俊 解説
「社会関係資本」という概念を起源から紐解き、人脈や信頼が持つ影響力、デジタル時代の新たな動向も踏まえて全体像を描く。



足元からの学校の安全保障
無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育
中村文夫 編著 ◎2750円
教育費・安全な環境・学力保障・インクルーシブ教育など、日本の学校が抱える様々な問題を「学校の安全保障」の観点から論ずる。



外国人生徒と共に歩む大阪の高校
学校文化の変容と卒業生のライフコース
山本晃輔、榎井縁 編著 ◎2860円
大阪の「枠校」の調査・分析結果から、高等学校における外国人生徒を受け入れるための論点を整理、日本の目指すべき方向を模索する。



韓国のオルタナティブスクール
子どもの生き方を支える「多様な学びの保障」へ
宋美蘭 編著 ◎3850円
韓国の代案学校（オルタナティブスクール）を、「多様な学びの保障」「包摂的な教育」の観点から、日本との比較も交えて分析。





「アドバイジングで“アドバイス”をしてしまっていませんか？」
学習者の自律性を育成するアドバイジングについて知りたい教師やチューターの方、研究者の方へ。本書には、前に進もうとする学習者とアドバイザーがどのように向き合うかのヒントが沢山つまっています！

リフレクティブ・ダイアローグ

学習者オートノミーを育む言語学習アドバイジング

ためしよみ

加藤聡子、ジョー・マイナード　著

A5 並製・408 頁 ￥4,400

ISBN978-4-87259-762-2 C3080

はじめてつくる「探究」の授業

「総合的な学習・探究の時間」を極めるためのワークシート

佐藤 功 編著

B5並製・一〇四頁 ￥一、六五〇

「総合」「探究」を教えられる教員になる！ 授業づくりにも役立つダウンロード可能な指導書付き。

分断社会と若者の今

吉川 徹、狭間諒多朗 編

四六並製・二八八頁 ￥二、七五〇

若者は本当に保守化したのか。大規模社会調査データから、若者の「今」を客観的に描き出す。

学力格差を克服する学校文化

効果のある学校のエスノグラフィー

西　徳宏 著

A5上製・四四六頁 ￥六、九三〇

格差社会のなかで実現される公正な学校教育とは。「効果のある学校」が持つ文化の成立と継承の実態を描き出す。

〒565-0871 吹田市山田丘 2-7
大阪大学ウエストフロント
https://www.osaka-up.or.jp

大阪大学出版会

TEL 06-6877-1614
FAX 06-6877-1617 価格税込
E-Mail eigyo@osaka-up.or.jp

検証 日本の教育改革

激動の2010年代を振り返る

●京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター 監修
南部広孝 編著
●四六判・256頁 ●定価2750円（本体2500円＋税）
●ISBN 978-4-7619-2753-0

■学校教育において変化の激しかった2010年代を総括！ 新学習指導要領／アクティブ・ラーニング／専門職大学などの諸政策をまとめ、その課題と今後の展開を提案する。

対象：小・中・高校教師

教師の底力

社会派教師が未来を拓く

●志水宏吉 著 ●四六判・192頁 ●定価1980円（本体1800円＋税）
●ISBN 978-4-7619-2688-5

■社会に貧困・格差・不平等が広がるなか、それを教育格差としない「社会派教師」が求められている。そのような「教師の底力」こそが、明日の教育と未来を拓く。第一線の教育社会学研究者が説く、現代の教育への提言とヒント。

対象：教師全般

月刊生徒指導

●毎月13日発売 ●B5判
●定価902円（本体820円）・年間誌代12848円（税込）（増刊2冊含む）

■小学校から高校の先生を対象とした、生徒指導の諸課題への取り組み方と、学級経営の技術や考え方を論じた雑誌。

対象：小・中・高等学校教師　生徒指導担当教員

月刊高校教育

●毎月13日発売 ●B5判
●定価1045円（本体950円）・年間誌代14905円（税込）（増刊2冊含む）

■高校教育の現状や課題を鋭く追求し、学校経営の考え方と事例を満載した、高等学校管理職必携の雑誌。

対象：高等学校管理職

学事出版

ご注文は TEL03-3518-9016 FAX 0120-655-514
https://www.gakuji.co.jp

井頭昌彦 編著　A5判上製400頁 税込5500円 ISBN978-4-326-30324-3

質的研究アプローチの再検討

――人文・社会科学からEBPsまで

質的研究は機能しているのか。KKV論争をふまえ分野横断的に検討。



小山静子　四六判上製368頁 税込3850円 ISBN978-4-326-65441-3

高等女学校と女性の近代

女性が高等女学校で教育を受ける意味とは何か。史料を繙き描出する。



額賀美紗子・藤田結子　A5判上製240頁 税込2750円 ISBN978-4-326-60355-8

働く母親と階層化

――仕事・家庭教育・食事をめぐるジレンマ

多様な背景をもつ母親達のリアルな語り。その困難と課題を示す。



荒牧草平　A5判上製264頁 税込4620円 ISBN978-4-326-60361-9

子育て世代のパーソナルネットワーク

――孤立・競争・共生

「人づきあい」と子育て態度や価値観との関係を調査により検証。



豊永耕平　A5判上製432頁 税込5940円 ISBN978-4-326-25169-8

学歴獲得の不平等

――親子の進路選択と社会階層

高校生と親の調査から、教育選択の格差が生じるプロセスを解明。



数実浩佑　A5判上製240頁 税込3960円 ISBN978-4-326-25168-1

学力格差の拡大メカニズム

――格差是正に向けた教育実践のために

「マタイ効果」を参照しつつ、学力格差の拡大メカニズムを分析する。



稲井智義　A5判上製272頁 税込6050円 ISBN978-4-326-25166-7

子ども福祉施設と教育思想の社会史

――石井十次から冨田象吉、高田慎吾へ

子ども福祉の思想を辿り、公教育と福祉の関係／役割をとらえ直す。



＊表示価格は10％税込

勁草書房（けいそうしょぼう）　https://www.keisoshobo.co.jp
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1　TEL 03-3814-6861　FAX 03-3814-6854